

管理運営の目標

碑文谷公園の管理運営の目標は、公園施設の機能を維持するとともに、大きな池、名所と呼べる桜、池を取り囲む樹林地、子どもも大人も楽しめる原っぱの風景を継承、発展させ、地域住民に愛されるような公園として位置付けていくことにあります。

このため、管理運営に際しては、以下のような点に配慮していきます。

○安全で快適な公園環境づくり

都市公園として、地域住民に安全で快適な環境を提供します。

○身近な自然を守り、育て、楽しめる環境づくり

樹林地、原っぱ、池等の環境の維持、動植物の観察、保護、育成を図り、身近な自然を通して自然とのふれあい方を学べる環境を提供します。

○住民の生活に密着した公園づくり

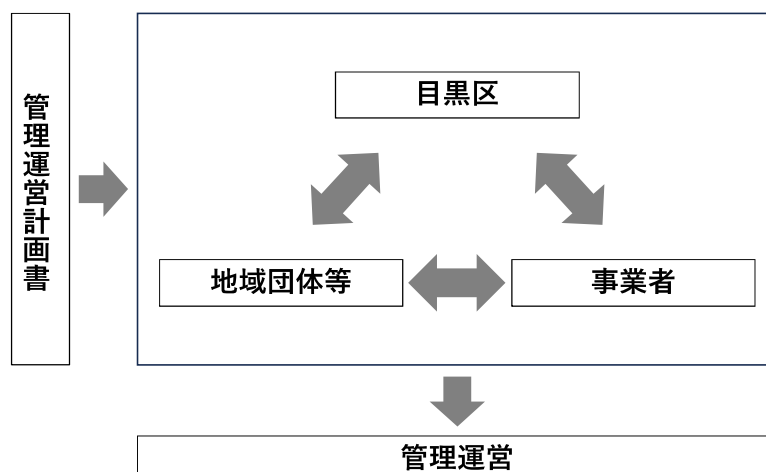
地域住民等の管理運営面への参加を促し、住民と協働した公園の管理運営を目指します。

○地域住民、活動団体間のコミュニティの形成

都市生活で忘れられがちとされてきた住民相互の話し合い、集い、協力の場として位置付けていくとともに、公園管理者、諸団体等とも広く交流を持ちながらコミュニティ形成に資する公園を目指します。

運営体制の目標

碑文谷公園の管理主体は目黒区ですが、地域住民や事業者の皆さまと共に公園の自然を守り育てていきます。



碑文谷公園の概要

開園年月日

1933（昭和 8）年
東京市開園

1950（昭和 25）年
区へ移管

2001（平成 13）年
公園拡張

面積

43,533.81 平方メートル

所在地

目黒区碑文谷六丁目 9 番 11 号
（最寄りの駅：東急東横線学芸大学駅）



碑文谷公園の歴史

碑文谷公園は 1933（昭和 8）年に南の「池のある公園」部分（以下「既存部」という）が開園した事に始まります。池は武蔵野台地辺縁に見られる湧水の一つで、かつては村の灌漑用のため池でした。この頃は、既に周辺の宅地開発が進んでおり、郷土の自然を保護する為に公園とされました。開園当時は、シラカシなどの常緑樹の並木、クヌギやコナラなどの雑木を主体とした武蔵野の雰囲気を残した公園でした。現在も池の南の樹林地や池北西に名残があります。

北側の「スポーツ施設のある公園」部分（以下「拡張部」という）は戦前より銀行のグラウンドとなっており、2001（平成 13）年に碑文谷公園の一部となった際には、新たに自由広場、芝生広場が整備されました。



出典：あの日 この顔（1982（昭和 57）年 目黒区）

昭和初期の弁天池付近の風景



現在の弁天池付近の風景